

HARMONY



令和3年9月22日
新庄市立新庄中学校
連絡先 新庄中学校
Tel 22-1555
文責 澁江 学美

One child, One teacher,
One pen and One book can change the world.
Education is the only solution. Education First.

ひとりの子ども、ひとりの教師、

一本のペン、一冊の本、それが世界を変えることができます。
教育こそが唯一の解決策です。まず、教育を！

女性への教育の必要性や平和を訴えるブログを書いて脚光を浴びたパキスタンの少女 マララ・ユスフザイさんは、そのことが原因で命を狙われる存在となりました。下校途中のバスの中で、イスラム武装勢力タリバン兵に銃撃され頭部と首に銃撃を受け、重傷を負いました。その時、彼女は14歳。世界中からの支援や応援を受け、彼女は深い傷から何とか回復をします。頭蓋骨の損傷部にチタンのプレートを埋め込み、左耳の聴力を回復させる装置も取り付けました。ノーベル平和賞の候補にもなりますが、「彼女にとってあまりに大きな負担になる」、「彼女はあまりに若過ぎる」、そして、何よりも「狂信的なイスラム教徒から今後も狙われる恐れもある」と、マララさんの身を案ずる声もありました。そんな中、彼女は学ぶことを再開します。治療先のイギリスで学校に通いはじめました。「学校に戻るといふ夢を実現したことに胸が高鳴っています。世界中の全ての少女がこの基本的な機会を持つことを望みます。」

恐怖体験をしてもなお教育を受ける権利を主張し続けそして彼女は実行したのです。

国連は、マララさんの誕生日である7月12日を「マララ・デー」と名付けました。16歳の誕生日を迎えたこの日、世界の若者が集まる国連の会合に出席しました。「私は全ての子供が教育を受ける権利のためここにいる」「銃弾で人を黙らせることはできない」と訴えました。「多くの人々が（武装勢力の凶行により）死亡、負傷しており、私はその一人に過ぎない」、「私は『声なき人』たちの代わりに声を上げる」「私は私を撃った過激派を憎んではない。過激派の子どもたちを含むすべての子どもに教育の機会を与えてほしいと伝えるためにやって来たのです。『一本のペンと一冊の本で世界を変えることができる。教育こそが唯一の解決策だ』と。（2014年 ノーベル平和賞を受賞 現在24歳）

- 予定です。変更になることがあります。
- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1日(金) あいさつ運動(1年生) | 15日(金) あいさつ運動(1年生) |
| 2日(土) 地区新人戦 陸上・相撲 | 合唱祭りハーサル |
| 5日(火) 学級討議 | 16日(土) 新人戦北ブロック大会 |
| 7日(木) 読み聞かせ | 17日(日) 地区新人戦 空手 |
| 1年生 Shin→job | 18日(月) 職員会議 |
| 8日(金) 愛修議会 | 19日(火) 3年生実力テスト |
| 9日(土) 2年生 ちょボラ | 23日(土) 合唱祭 |
| 吹奏楽祭 | 学校評議員会 |
| 12日(火) 合唱祭練習(帰りの会) | 25日(月) 23日分振替休業日 |
| 14日(木) 県新人戦壮行式 | 26日(火) 専門委員会 |
| | 29日(金) 生徒集会 |



フィリピンセブ島 マクドナルドの照明で学ぶ子

社会科や英語、SDGsの視点からも、今世の中で起きていること、タリバン、ミャンマーのことを先生たちがお話してくれていると思います。

私たちは、武力や暴力で相手を攻撃するだけでは解決しないこと、宗教や言葉が違う人が理解し合うには相手のことを考える知恵が必要であることを、教科や毎日の学校生活を通して学んでいます。

マララさんが「平等に学ぶことができない現実」に疑問を投げかけたのは11歳の時です。17分にも及ぶ国連でのスピーチの最後を、この言葉「一本のペン〜」で締めくくりました。14歳の少女を複数の大人が武器を持って攻撃するような世の中を作らないためには、「学ぶことだ」と彼女は訴えているのです。世界のさまざまなところで紛争や戦争が起き、家もなく、食べるものもなく、貧しくて、勉強したくてもできない子ども達が1本の鉛筆や1冊のノート、1冊の本を、どんなに大切にしながら、皆さんと同じ時期を過ごしているのか、少し想像してみてください。そして今でもみんなと同じ年で「勉強すること」ができない子どもがいることを知ってください。

「日本は、平和なんだから、この子たちに比べて幸せなんだから、もっと勉強しろ！」とそんな短絡的なことを言いたいのではないのです。学ぶということがなぜこんなに人をひきつけるのか、エネルギーになるものなのか、その楽しさ、尊さにいつまでも気づかず、誰かのせいにして「始めない」、棚上げするのはもったいないなあと..。